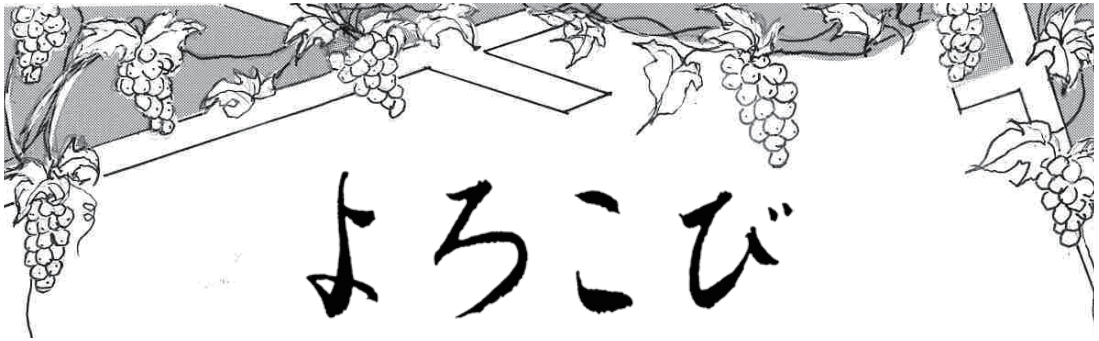




2023.9.20 第138号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信

恵みの中を

辻 哲子



辻 哲子 先生

1953年春、私は東京神学大学を卒業し、秋には辻宣道（当時焼津教会牧師）と結婚し、その翌年、静岡草深教会に就任しました。彼の著作「教会生活の処方箋」に書いてあるように悪戦苦闘の中にも祝されて、40年目には、より大きな新会堂建築へと導かれました。しかし建築中、夫は顎下腺癌になり召天し、そのあと私が主任牧師として大任を担うことになりました。長老会をはじめ教会員の支えを得て、7年間伝道牧会に専

念することができました。夫はなくなる前に「70歳で静岡草深教会を離れなさい。そして隠退をしなさい」。私は遺言どおり2001年3月で静岡を離れ隠退しました。思えば一つの教会に47年間、伝道牧会にたずさわることのできた恵みは特別なものでした。貴重な宝でした。

隠退先は、夫が亡くなる年に購入してくれた千葉市稲毛駅の近くの集合住宅です。すでに次女の家族がその一階に住んでおり、その二階に住むことができました。また近くに、長女の夫・山中正雄師（日本アライアンス教団）が40年前に開拓伝道した千葉キリスト教会もあり、二人の娘たち家族と共に私は教会生活を始めることができました。隠退後の20年は全国教会婦人会連合及び諸教会の集会に招かれ多忙な日々でした。しかし思いがけない出逢いがあり、旅行好きな私にとっては恵みの日々でした。

93歳になりましたが、山中正雄師は精神科医でもあるので出張することがあり、その留守中の祈祷会の聖書研究、聖日礼拝説教を担当しております。教団が違いましても、静岡草深教会と全く同じ形式の礼拝、祈祷会です。違和感がありません。今年伝道40年を迎え、63名の教会員と共に10月に感謝礼拝を捧げます。コロナ禍にあつても、CS、礼拝、祈祷会は中断することなく、私はCS説教と礼拝奏楽を二ヶ月に一回担当しています。近くに住む4歳と2歳の曾孫もCSに参加していることは大きな喜びです。

毎月第4月曜日は西早稲田のキリスト教会館で「継続的聖典としての聖書の学び」、第4火曜日は千葉支区の「自主聖書を共に学ぶ会」（西千葉教会）に出席しています。著しく能力の減退は否めませんが、残された力を大切にして主の恵みにお応えしたいと感謝の日々を送っております。

思えば年金局のお働きのお陰で思い煩うことはありません。主の言葉と次女の家族と頂く夕食が健脚の源かもしれません。

大花野恵みの中を明日が見え
(つじ てつこ)

主に助けられ

導かれた人生

佐藤 孝義

私は1930年に神戸の須磨で生まれ、さみどり幼稚園に通って初めてキリスト教に出会いました。園長は熊本出身の福永ツギ先生で、後に西南学院に招かれて福岡に移住され、私は東京に移りましたが、先生との関係は生涯続いてお世話になり、いろいろ助けて頂きました。

1939年に私は東京・江戸川区に移住。亀戸教会で鈴木正久牧師に出会いました。小学校を卒業して聖学院

中学校に入学。そして3月10日に東京大空襲。教会はきれいな更地になっており、コンクリートの基礎が暖かかったのが忘れられません。鈴木牧師の後を継いだ伊藤牧師は戦死。婦人伝道師と神学生は空襲で亡くなり、私の通う亀戸教会は無くなってしまいました。それで鈴木牧師を追って西片町教会に通うことになりました。全てがなくなった亀戸教会のことを考えて牧師になる決心をして東京神学大学に通いました。

1956年に神学校を修



佐藤 孝義 先生

了して長野県町教会に赴任しました。鈴木牧師は私が頼りないので、知人に無理に頼んで、副牧師として2年間県町教会でお世話になりました。

長野に赴任したら、夏休みには東海6県の幼稚園教師研修会が予定されており、私は県の係長と一緒に準備し、終わるまで仕事をしました。そして教会の幼稚園教師が研究発表をするので、相談を受け指導助言をしました。神学生の時に、青山学院で心理学や教育学を受講したのが役立ちました。教会では信州大学の学生や教師と楽しく勉強出来たことは、徳島の生活のためにも役立ちました。

1958年から2年間、阿波池田教会に滞在。建物は小さな旅館で、暖かい家庭的な教会で、乳幼児の世話が充分に出来た事を感謝しています。1960年に徳島北教会に変わり、近くの少年鑑別所へボランティアで通い、児童養護施設園長から始まり、保育専門短大の授業、家庭裁判所の調停など忙しく過ごしました。県から障害者施設を頼まれましたがそれは断り小郡教会に、更に1993年に呉山

手教会に就任。丁度呉市内の教会が祈り募金して老人施設を始めたのでその経営責任者になり、予定より永く呉に、最後はサービス付高齢者住宅に住みました。呉の生活はとても明るく便利で楽しかったです。
(さとう たかよし)



「隠退教師を支える運動」

初の新任推進員研修会を開催しました

2023年7月21日(金)に、2022年4月以降に当運動の「推進員」になられた方を対象にした新任推進員研修会を開催しました。当運動初めての推進員研修会であり、対面・Zoom併用で、推進員9名、事務局3名、計12名の参加を得て、当運動の沿革・役割、担い手などについて学びと協議を行いました。(事務局)

研修会の実りに感謝

東京教区(千葉支区) 推進員

山角 正子

灼熱の太陽が照りつける午後、若者でにぎわう早稲田の街のエネルギーを感じながら、日本キリスト会館へと向かいました。「隠退教師を支える運動新任推進員研修会」に出席するためです。

私は、2023年2月に東京教区千葉支区の推進員に就



山角 正子 さん

かせていただきました。その際前任の方の丁寧な引継ぎと事務局からも資料をお届けいただき、この運動の歴史や精神・現状等の概要を知る事ができました。が、未消化の事が多く、具体的にどのような活動するかという不安がありましたので、研修会開催はありがたいことでした。

開会礼拝で読み上げられた『イザヤ書46章3〜4節』が、「隠退教師を支える運動」を導く大切な言葉と教えていただきました。

その後、鈴木秀信委員長が運動の歴史や役割、現状、具体

的な働き等について、詳しく説明下さいました。全国の推進員の方々のお顔を拝見し、意見を伺い、一体感を感じられたのも嬉しい事でした。尊い運動に用いていたただけの幸いに感謝し、祈りつつ運動を進めたいと願います。(やまずみ まさこ/新津田沼教会)

新任推進員研修会に参加して

西東京教区 推進員

福田 栄一

2023年7月21日に「隠退教師を支える運動」新任推進員の研修会に参加しました。何も分からなかった私が推進員に選出されました事を感謝します。100円献金がどのような経緯で始められたのか等、2時間に亘り説明を受け、推進員の一人として新たに奉仕していく気持ち湧いて来ました。

隠退後の教師の事を考えると、安定して支給出来るよう盤石な土台を築いて行かなければならないと思いました。

西東京教区選出の八王子教会の中寫兄と打合せをし、①各教会の100円献金に対しての現状を把握していただく。②実施している教会に100円献金の担当者を置いていただき、定期的に(6ヶ月に一回位)担当者会議を開く。③教会・伝道所の57%しか実施していない為、年に2、3ヶ所の教会に向いて教職に協力をお願いする。



福田 栄一 さん

マタイ・ルカによる福音書に「求めなさい、そうすれば与えられる」とあります。天の父は求める者には聖霊を与えて導いて下さり、その導きによつて100円献金の輪が拡大し、充実する事を心より祈り願います。

(ふくだ えいいち/狛江教会)

業 務 室 よ り

一年金を受けている方へ 年金給付のお知らせ

10月の定例給付のご案内をします。

送金内容 2023年度第2期分給付
(2023年7・8・9月分)

送金日 2023年10月10日(火)
期日に、ご指定の金融機関に入金されていない場合は、ご連絡ください。

次回送金 2023年12月8日(金)

連絡先・年金振込先の変更は、できる限り早めに、書状、Fax、e-mailの何れかで、年金局までお知らせください。

☆ 2023年版「受給者名簿」を同封いたします。正確を期したつもりですが、誤りがありましたらお知らせください。この名簿は受給者の交わりに役立つように作成しているものです。それ以外の目的にはご利用なさいませんよう、扱いにはくれぐれも留意ください。破棄される際にシュレッダー等の処理が難しい方は年金局にお送りください。

住所欄の□は、2022年度の現況届で住所等の記載を望まない意思表示された方です。今年度4月以降に受給者となられた方は、原則、そのまま記載させていただきました。

名簿の送付が不要と申し出られた方には同封しておりませんので、お入り用の際にはご連絡ください。

☆ 7月10日の定例給付日には、退職年金1億752万円を711名の受給者にお送りいたしました。

☆ 6月29日(木)～30日(金)第42総会期第2回年金局理事会を開催いたしました。

出席者は27名(内、オンライン1名)。理事、支区代表の交替も多く、対面での集まりの喜びを実感いたしました。

今回は三菱UFJ信託銀行に委託した「第7回教団年金財政検証」の結果について、制度検討諮問委員会顧問・位田周平氏より約2時間にわたる講義を受けました。

①財政検証の枠組みが確立されている
②今回はより実態に近い前提条件での計算であったため、より現実的な結果となった
③積立状態は安定的に推移しているとの評価がなされ、今後の展望としては、積立不足の償却(謝恩日献金等への期待)と年金掛金の増加(加入者の増加、中断者の減少)などがあげられました。

☆ 本号では、93歳になられた辻哲子先生と佐藤孝義先生に、これまでの歩みや近況をお書きいただきました。原稿のお願いのために何人かの先生方とお電話をして、お元気なお声を聞くことができ、お二人には快く引き受けていただきました。感謝です。

☆ 年々、夏の暑さが厳しくなり、大気的不安定により各地を襲う自然災害が後を絶ちません。被害を受けた方々には心からお見舞い申し上げます。

また4年ぶりの制限のない夏を迎え、コロナ以前の状況に戻りつつあると言われています。しかし、実態は感染者は増え、医療機関のひっ迫も増加しているようです。引き続きくれぐれもご自愛くださり、みなさまの上に主の平安がありますよう、ご健康が支えられますよう、心からお祈りいたしております。

(村山めぐみ)

日本基督教団年金局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18

Tel: 03(3202)2080 / Fax: 03(3202)2081

mail:nenkin@uccj.org

「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18

Tel: 03(3232)8005 / Fax: 03(3202)2081

mail:sasae100@uccj.org